



国鉄新潟

NO. 646
発行
08・11月15日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

地本定期大会 みんなの意見

定期大会は、十三時五分から開会し方針や財政関係の提案を行いその後、全体の討論に入りました。代議員からは、職場の問題・活動報告が中心に発言がありました。



出向者における無事故表彰について実施されていない。具体的内容についてどうなのか。解決している地方はどのようになっているのか。もらっている地方があるが教えて欲しい。

新型排雪車導入についてトラブルが発生している。操作が複雑になっている。新たに導入されるが運転操作が本線の電車と同様の操作になっている。
昇進・昇格について、和解から昇進試験の結果が納得のいかない実態だ。約束が実行されていない。実態調査すべし。差別の無い職場をつくっていく。

中間答弁

あっせん申請～まともな労使関係・人事考課をすること。これを改善していく。東日本だけ申請している。具体的事案を積み重ねていくのが重要だ。

補助的業務～パソコンでの管理(助役)これをやめさせる。現場長が把握をする。あっせん申請～支社の総務部長のみで現場説明はしていない。

並行在来線～具体的な、たたきだいを本部が作成する。使えるものは全て使っていく。改革法が引き継いだ線路はすべてJRが負担して引き継ぐ。自治体とともにJRも負担しておかしくないのではないか。JRが責任をもった経営。与党合意も無くしていくことも考えていく。

青森では整備新幹線建設に多額の借金をかかえている～毎年200億円。
北陸・長野・新潟で交流会の開催について相談していく。投排雪車のトラブルについて、7件。今年度9台導入される。冬季要求と合わせて上げていく。

貨物の囑託制度～出向先での休日数の関係や手当てについて、今後問題として機関へ訴えていく。

エルダー社員の組合費が高い～意見として上げ、地方本部費について見直しは必要と考えている。

水俣闘争について方針書に入れる。

支部統合については～4から2支部くらいに整理したい。

国鉄闘争～解決していくためにやり方・行動について意見の違いはあるが政治的解決をめざしていく。否定的な意見を言うよりも運動を進める立場で議論してほしい。



並行在来線の取り組み、各地での取り組みで自治体が変わってきている。五月に妙高市で考える会が発足した。地域へ入ってオルグを展開・要請。はじめはあきらめムードだったらしい。

やがる
批判満ち
高

今さらやっても駄目だという考えだった。
信越山線の本数が少ない、冬場は列車が止まる状況なので車社会へ進んでいる。駅前商店街の実態状況など多くの問題があった。しかし時間がたつにつれて批判や不満が高まってきた。
シンポを開催し、学生からの意見発表があった。与党合意の見直しを求める。上越市議会議員がバス転換をと、とんでもない提案を発言した。三市連絡会は反論も含め申し入れを行った。これによって市議会の会派が分裂した。状況が変わっている。
請願書も提出した。議員への対策も行っていく。上越市議会議長が賛成してくれた。三市の議長会として中心になって進めている。情勢が動いている。
国・JRの責任をどう果たさせていくのか。三セク問題は労働条

貨物問題～昨年からの囑託制度が導入された。出向社員について出向場所での囑託となった。出向場所へしか囑託希望ができない。
出向場所の労働条件～年間休日六十歳以上の囑託社員は年間二十四日間増えるが出向場所では休日が増えず賃金で支払われる。金で解決しているが休日の増についてどうにかならないか。出向会社の労働条件は厳しい実態だ。六十歳以上の社員が残れる環境をつくっていく。
MR車の導入でラッセル車が廃止される。入換機も動車化されていく状況だ。分会間の交流会を開催し各職場の実態について議論し交流を深めていく。



件の悪化・利用者への負担、安全に対するの切りつめなど問題がある。各地域・各機関で与党合意見直しの方向で運動を進めていく。
対策会議、県が協議会、二年をかけて策定していく。この一、二年が山場になる。専門家からの提言・調査が必要だ。そのために三地本の交流を設定して欲しい。

書記長集約



JR不採用事件について

四者四団体の団結を発展させ堅持していくことを全国大会で決定し進めている。10・24中央集会の成功に向けて奮闘する。12・7国鉄闘争新潟県年末集会の成功をめざす。闘争団・全動労争議団など四者四団体の新潟版を考えて集会を開催していく。

労働条件改善・安全安定輸送確立に向けて

全体の意見から、10・22業長会議で議論されるが手当や制度政策要求改善について議論する。公平・公正な労使関係を実現させる。さまざまな問題を集約し、あっせん申請となった。

職場アンケート調査が4割程度出されていない。今月中に集約・回収をめざす。

貨物和解以降の取り組み～全貨協と連携して運動を進めていく。昇進試験や新採者対策について関東貨物協と連携しエリア本部を動かしていく。

組織拡大について

2月・9月に拡大、国労へ2名加入した。状況のテンポが速くなっている。多くの経験交流を実施しながら広く国労加入を訴えていく。

総選挙の実施

情勢が大きく動き出すのではないかと。大衆行動・裁判闘争へも影響が出る。



年末手当3、5ヶ月を要求!

客・貨一体となって会社を追い込んでいこう!

11・13中央行動成功させよう!



あっせん申請、職場で個人面談が実施されている。補助的業務とは? 申し入れを地本でもやってほしい。
財政について、エルダー社員の組合費三六〇〇円は、高いのでは? 多少配慮してほしい。
職場では臨時社員として十年以上も雇用されている、正社員になってもいいのではないか。採用試験について納得のいかない結果になっている。



支部のあり方について地本の考えはどうか。工務で事故が多発している。人命の確保が重要だ。CTCになって線閉の確認、件数制限について訴えていく。
エルダー社員、出向会社へ希望(ハーフ希望)している。健康保険・厚生年金は3/4以上じゃないと掛けることができない。



工務職場では事故が多発している。死亡事故が発生している。安全に対して会社側を追究していく。スロークランに永保闘争について入っていないが加えていかなければならない。

職場の実態が方針書から伝わってこない、総括してほしい。生き残ったものにならない。四者四団体は反対、きちつと職場で闘っていくことだ。労働者の立場で闘っていく。
四者四団体は全体が本当に団結しているのか。JRと闘う姿勢があるのか。国労弁護団は解決金のみと言っている。
安全問題について、『いなほ』脱線事故について方針書に触れていない。要員不足が深刻化している。年休が取れない状況だ。



休日勤務を拒否する闘いを行う。春闘では、ストライキで賃上げを訴えていく。国労に対して青年労働者は注目している。金融大恐慌、労働者が中心になっていく。事務所問題について、新潟支部ではかけがえのないものだ。駅南口への事務所移転の検討を。
職場の状況、新型車両の導入、115系が三年、十年までに新系に替える。新車127系を配置する。検修業務についてどうやっていくのか不安だ。



JR労組は、東労組に揺さぶりをかけている。東労組とJR労組は職場で労・労対立が発生している。拡大について国労加入を訴えていく。
限られた時間でしたが多くの代議員からの発言がありました。その後、全体で大会方針が承認されました。その後、地方委員の選出されました。最後に守橋執行委員長は、団結がはるうで終了しました。